



季節先取り?!金魚で涼しく号



3月3日は金魚の日。3月3日といえば「ひな祭り」ですが、江戸時代にひな壇にひな人形と一緒に金魚を飾ったことに由来します。当時は春の節句に鮮やかな赤い金魚で華やかさを添え、鑑賞して楽しんでいただたそうです。先立って2月にはひな祭り用として金魚が売られていたほどです。そこで今回は「金魚」の特集です。

●金魚の生態と歴史

金魚はもともと中国で生まれました。その歴史は2000年前にさかのぼります。野生のフナから赤色の個体が発見されたのがきっかけです。フナは突然変異を起こしやすく、人為的に様々な品種が作られてきました。詳しくは後述しますが、大まかに日本国内では30種類、原産国の中国では100種類を超える品種があるとされています。また、中国から日本に入ってきたのは室町時代中頃…という説が有力なようです。当時は貴族や富豪の愛玩物として飼育されていました。淡水に住み、藻や水草を食べ、体長は30センチメートル程度まで成長します。寿命は10～15年ほどとされますが、ギネス記録では43年生きた個体もいます。飼育にあまり手がかからないことから人気があります。但し、ペットが禁止されているマンションやアパートは観賞魚も対象となることが多いようですので、注意してくださいね。

●金魚の種類

前述の通り、金魚には色々な種類がありますが、その中から代表的な品種をいくつか紹介します。まずはなんといっても「和金」。金魚すくいの屋台でも定番の赤い品種です。日本に一番最初に入ってきた品種とされ、体も丈夫で大きくなりやすいのが特徴です。一方で、気性が荒いところもあり、実は水槽飼いには向いていないとも言われています。ちなみに筆者の自宅でも幼少の頃に池で育てていましたが、小さな鯉のイメージが強かったです。

続いて紹介するのは出目金。大きく目が飛び出ているのが特徴ですね。色にはバリエーションがあり、黒・赤・白など。生まれ立ての頃は目は引っ込んでいますが、生後3ヶ月くらいから大きくなりはじめます。飼育自体はそれほど難しくはないのですが、目が大きいと、取扱には注意が必要です。特に飛び出た目が万が一取れても、元に戻ることはありません。また、目の大きさの割には視力が弱く、前述の和金のように素早い品種とは一緒に飼わない方がよいとされています。

続いては琉金。こちらも金魚の定番品種で、丸っこい体に長くて優雅な尾ひれは人々を魅了しています。流通量が多く、人気も高いです。金魚鉢でよく見かける品種ですね。本品種は和金から派生したものです。江戸時代に日本に入ってきたとされますが、沖縄経由で入ってきたことから「琉」の字が使われています。餌を食べ過ぎると転覆しやすい点に注意が必要ですが、それ以外は飼育に関しては容易な品種です。

最後に紹介するのはコメット。こちらはなんとアメリカで生まれた品種です。日本から輸入されたフナや琉金が自然交配を重ねた結果誕生しました。1880年代にフシントン水産委員会の池で、琉金の変異個体として発見されました。それを餞別・淘汰してできた品種です。体型は和金に近いのですが、長い尾ひれは琉金らしいのが特徴です。赤白の更紗が良いとされ、全身白の個体は評価が低いんだとか。またカラスゴイとの交配で黒い個体もあり、ブラックコメットと呼ばれています。

今回はこの4種類を紹介しましたが、他にも多数の品種があり、愛知県産の地金、高知県産の土佐金、島根県産の出雲南金は各県の指定天然記念物とされています。



●金魚と文化

金魚といえば、それを中心とした文化も日本では盛んです。例えば「金魚すくい」。江戸時代の浮世絵には既に描かれており、当時から子供達に人気でした。特に盛んになったのは第二次世界大戦後。縁日などでお馴染みとなりました。養殖が盛んな奈良県大和郡山市では「全国金魚すくい選手権大会」も行われています。一般的には「小赤」と呼ばれる和金が使われることが多いですが、九州では琉金が使われる場合もあります。

また、夏には涼しい印象を与えることから、浴衣やうちわなどの図柄としても定番になっています。特に風情があり、人気なのは「江戸風鈴」。透明なガラスに描かれた金魚柄の風鈴は、「チリンチリン」という音とともに、暑さの中にも涼しさを与えてくれる逸品として人気があります。ちなみに風鈴の音色は鈴虫の鳴き声と同じ周波数で、リラックス効果も高いと言われています。

伸社長が行く! 秋田市山王・株式会社増田鉄工場秋田営業所
突撃!!隣のお客様 営業課長代理 児玉 学 様



今回は株式会社増田鉄工場秋田営業所の児玉営業課長代理にお話を伺いました。増田鉄工場は「渦巻きポンプ」の製造販売を行っていますが、秋田営業所ではポンプの保守整備の仕事をしています。対応範囲は農業用や工業用、行政(水道関係)など、秋田県内ほぼ全県に渡り、作業を行っている

そうです。一般的な定期点検の他、不具合の修理等があり、特にインフラ関係の修理では昼夜関係なく連絡が来るとのこと。この修理や保守では技術面だけでなく「体で覚える」部分もあるそうで、「聴診」による不具合箇所の診断も肝なんだとか。また、弊社で昨年立ち上げた「施設建設部」ともタッグを組み(本欄右側参照)、一緒に対応させて頂いております。技術面においてはまだまだ学ぶことも多く、ベテランの児玉課長代理には作業現場で実技指導をして頂く機会が多く、大変お世話になっています。これからもよろしくお祈りします。貴重なお時間ありがとうございました。



■株式会社増田鉄工場…1908年4月創業(1957年9月創立)、資本金7000万円。代表取締役社長は雑賀匠氏。主な事業は工業用渦巻ポンプ・水封式真空ポンプの製造及び販売(ますだポンプとして商標登録済)。秋田県横手市十文字町仁井田字大道西28。拠点は横手市十文字の他、秋田市と東京都中央区。

三栄機械器具(株)施設建設部×(株)増田鉄工場

弊社では昨年春、施設建設部を立ち上げました。増田鉄工場様から協力を得まして、各種ポンプの保守事業を始めております。ポンプのトラブルも弊社におまかせ下さい。また、施設建設部では各種設備の据付・移設やそれに関わる工事の手配なども行っています。お困りごとは、弊社施設建設部(担当:志村)までお気軽にご相談ください。



第45回 東北どてらい市
4月10日(金)仙台バスツアー参加者募集中
申込締切3月19日(木)
申込は担当営業までお気軽にどうぞ

祭 北東北・イベントあれこれ 2026/3

- 3日 仙北市(西木)/中里のカンデッコあげカンデッコ(朴の木で作った鉄)とクルミの木で作った男根を、神木である桂に願いを込めて投げかける。
- 8日 岩手・遠野市/「遠野物語」を語る「遠野物語」を題材に、人形浄瑠璃文楽の太夫による語りと文楽人形、遠野の民俗芸能が織りなす舞台です。
- 14日 青森・風間浦村/風間浦鮫鮓感謝祭 鮫鮓や鮫鮓汁が販売されるほか、活きた鮫鮓が泳ぐ姿や吊るし切りの実演を間近で見ることができます。

米澤穂信
氷菓
 The niche of time

読書家・伸社長がオススメ! BookWatcher

氷菓

米澤穂信著/角川文庫刊 2012年発売
 定価792円(税込、電子書籍版は495円)

オススメの1冊を紹介する「BookWatcher」。毎月伸社長が厳選した一冊を紹介しています。今回は「氷菓」です。

『氷菓』は、米澤穂信の代表作で、いわゆる「日常ミステリー」/「青春ミステリー」です。主人公の省エネ主義者の高校生・折木奉太郎が、好奇心旺盛なヒロイン・千反田えるとともに、学校や古典部に潜む様々な謎を解き明かしていく物語で、「人が死なないミステリー」として人気があります。

主人公の折木奉太郎は「やらなくてもいいことにはしない。やらなきゃいけないことは手短か」という省エネ主義者の高校1年生。姉の手紙に従い、入部直後に先輩の千反田えると出会い、廃部寸前の神山高校・古典部に入ります。部には同級生の福部里志、伊原摩耶花も加わります。物語は、部活動の中での日常の“小さな謎”(鍵のかかった部室、毎週貸し出される本、不在なはずの文集など)を奉太郎が推理で解決していく軽い構成から始まります。そしてやがて、千反田がずっと知りたがっていた33年前の古典部に関する大きな謎へと物語は進展します。33年前の事件と真相とは、千反田の伯父・関谷純は33年前に古典部に所属していました。彼は文化祭の縮小方針に反対し、生徒の側に立って行動した中心人物でしたが、結果として学園当局に退学処分を受けました。実際は、文化祭縮小を阻止したのは彼だけではなく、全校生徒の合意が背景にありましたが、責任者として関谷が犠牲になったのです。退学後、関谷は失踪し(インドに行ったまま帰らないともされ、やがて「死亡扱い」にもなります)。『氷菓』のタイトルは英語の標語“Iscream(私は叫ぶ)”/“アイスクリーム”の遊びであり、関谷が全校生徒の代弁者として声を上げた象徴でもある、と奉太郎たちは理解します。そして千反田は、幼い頃に伯父から聞いた言葉の意味を思い出し、長年心に残っていた感情(「生きたまま死ぬのが怖い」という思い)と向き合い、伯父を送る準備を整えることが出来ます。物語のラストは大きな謎が片付き、文化祭の準備が進む中、千反田の「わたし、気になります!」という一言が、次の謎への扉となり、物語は終わります。これにより、古典部の活動はまだまだ続いていくことがわかります。小説の評価は賛否分かれる部分もありますが、アニメ化・映画化・漫画化もされており、根強い人気のある青春ミステリーです。皆さんも是非一度、読んでみてください…

ちよっと一杯! もう一杯!! ペロペロ通信

宮城県塩竈市 佐浦

純米生原酒 しぼりたて 浦霞

原料:まなむすめ 精米歩合:65%
 日本酒度:0.0 酸度:1.6 アルコール:17%

今回は宮城県塩竈市の「浦霞」を紹介します。以前に紹介した石巻や気仙沼など、宮城県は魚が美味しいせいか、酒蔵が点在しています。塩竈市は、特にまぐろの漁獲高が日本一であることでも有名です。ここ秋田でも宮城県産のまぐろはよくスーパーで見かけますね。さて、今回の浦霞を醸造する佐浦は1724年創業の老舗。やはり海の幸との相性を重視しているんだとか。この「しぼりたて純米生原酒」は新酒らしいフレッシュさに加え、旨味や酸味がバランスが取れた1本です。この時期は塩竈名物のおでんや安価なピンチョウマグロなどと合わせると美味しい一本だと思います。大雪で大変だった冬に思いを馳せて楽しみたいですね。720ml 1,694円(税込)。

■編集後記
 今月の特集は金魚でした。筆者の自宅では、小さい頃に池で金魚を飼っていました。近所に野良猫が増えた頃、金魚を全て食べられてしまった苦い思い出があります。その後、家のリフォームでその池もなくなり、以来飼うことはありませんでした。ただ、飼育のハードルは低い生き物なので、いつか機会があれば、また飼ってみたいですね。

伸社長のグルメ図鑑 湯上市昭和 そば処安澄

秋田県湯上市昭和、JR大久保駅の目の前にある蕎麦店「そば処安澄(あずみ)」を紹介します。地元では非常に有名で、特に週末は行列ができるほどの人気店です。私のお勧めは名物メニューである「冷かけ納豆」です。多くのお客さまが注文する不動の人気メニューです。特徴として納豆だけでなく、たっぷりの具材が、蕎麦が見えないほどぎっしりと載っています。それらを徹底的に混ぜてから食べるのが良くて、独特の食感が楽しめます。遠方から食べに来るお客様もいるほどで「納豆と出汁の相性が抜群!」だと思います。値段は1,250円と、蕎麦としては少し高めですが、ボリュームと満足感で納得です。麺は白っぽい更科系。コシがかなり強く、喉越しが良いタイプです。鯉の香りが効いた、少し濃いめのつゆが私は大好きです。一緒についてくる漬物も美味し、お口直しにぴったりの名脇役として喜ばれています。店内は広々としていて、興行があり、お座敷もあります。席に着くとまず「蕎麦湯」が出されて、おや?と思うかもしれませんが…もし行かれるなら、時間に余裕がある場合はお昼のピークを少しずらすのがいいかもしれません。

三栄機械器具株式会社
 〒010-0065 秋田県秋田市茨島2-9-35
 TEL 018-862-3105 FAX 018-863-0924
 企画・編集 佐々木隆貴

Facebook, X, Instagram icons and text: **三栄機械器具 検索**